

学びの広場

公民館活動 生涯学習
文化振興 学校 スポーツ

地域で学び、活動する
皆さんを応援します

北秋田市
教育委員会

平成20年度市
鷹巣地区婦人学級
連絡協議会(寺田
栄子会長)の総会が
4月28日、中央公民
館で開催されました。

協議会には16の婦人
学級が加盟、315名の会員が身
近なテーマで学習活動に取り組んでいます。

今年度の事業計画として移動研修「わらび劇場」おくのほそ道「観劇」婦学連協だよりの発行、ふるさと踊りと餅つきまつりほか各種行事への参加、子育て支援へのボランティア活動などが承認されました。

引き続き行われた懇親会では、歌の斉唱や会員によ

これからも会員一丸となって

鷹巣地区婦人学級連絡協議会総会



活動への思いを新たにしたい
鷹巣地区婦学連総会

る芸能発表も披露され、笑いも飛び交う大変楽しい時間を過ごし交流を図りました。

家庭から環境保護を考える

合川公民館ロビー展

合川公民館では4月中、木戸石婦人会と川井老人クラブ有志の皆さんが制作したエコクラフトバック・布ぞうり作品のロビー展を開催したところ、市内外から訪れたたくさんの方々に喜ばれました。

家庭で眠っている布地を利用した布ぞうり、袋物そして環境に配慮したクラフトテープを使用したバック、小物入れなど多彩で丁寧な作りあげられたぬくもりの感じられる作品の数々は、人々の心を和ませるとともに、女性の視点で家庭から環境を考えるよい機会となりました。



リサイクル品を利用した作品を展
示した合川公民館ロビー展

した。公民館では、今後も各種サークルの方々の作品をご紹介します。

囲碁 - 飽きのこない奥深さ

阿仁公民館「囲碁同好会」

阿仁公民館では、毎月第2と第4金曜日の午後1時より「囲碁同好会」の皆さんが、棋力を競い合い対局を楽しんでいます。

囲碁は約4千年前に中国で始まり現在に至っている驚くほど歴史のあるゲームです。その魅力は飽きのこない奥深さと誰にでも楽しめるルールにあります。

また、布石や中盤での読み、終盤のヨセにおける目算など、脳を刺激する要素がたくさん備わって「脳のトレーニング」にもってこいです。同好会では会員を随時募



「脳トレ」にも最適な囲碁。阿仁公
民館の同好会では、会員を随時募集

集していますので、腕を試したい方はもとより、初心者の方もどうぞお気軽にいらしてください。



サケのそ上る湯車川をきれいにして
清掃活動を行う伊勢堂岱遺跡WGの皆さん

サケがそ上る湯車川を清掃

伊勢堂岱遺跡ワーキンググループ

伊勢堂岱遺跡ワーキンググループが4月30日、遺跡そばの湯車川の清掃を行いました。この川はサケがそ上ることでも知られていますが、昨年の水害で、空き缶や流木・ワラが散らばっているため、今年もスムーズにそ上できるようにと実施したものです。伊勢堂岱遺跡は5月3日から公開されています。土日・祝祭日にはガイドボランティアが対応します。なお、団体の方は事前にご連絡ください。

問い合わせ先 教育委員会生涯学習課 ☎62 6618

市立鷹巣図書館が全国表彰

子ども読書活動優秀実践図書館に

市鷹巣図書館が、平成20年度の子ども読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰に選ばれました。表彰は、文部科学省が広く子ども読書活動についての理解と関心を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動について優れた実践を行っている図書館を顕彰するもので、今年度秋田県からは同図書館が唯一受賞しました。鷹巣図書館は平成3年に現在の市文化会館のオープンと同時に開館、これまで主な活動として図書館ボランティア、たまたまはこ

と連携し、読み聞かせの会、おはなしでこい」を定期的に開催しているほか、「園児の図書体験デー」を企画・実施してきました。また、毎年、市読書感想文・読書感想画コンクールを開催しています。さらに、市内4館の図書情報をもとめた児童向けの「冬休み・夏休みの図書館案内」を発行するなど、地域全体の読書環境づくりに努めた地道な活動が認められたものです。

ふるさとの文化財

旧阿仁鉱山外国人宿舎(異人館)

所在地・北秋田市阿仁銀山字下新町41番地1



旧阿仁鉱山外国人宿舎(異人館)

これは明治15年(1882年)阿仁鉱山にやってきて、技術指導に当たったイギリス人やアメリカ人達が住むために建設された建物です。秋田県内に残っている最も古い洋風建築で、東北地方でも数少ない煉瓦づくりの洋風住宅です。ドイツ人で鉱山技師のアドルフ・メツケルという人が設計した建物とされています。建物の特長は、1階建ての住宅で外まわりは半円形窓、上げ下げできる窓枠戸となっています。周囲はコロニアル様式と言われているベランダになっていて、とても洒落た今風の感じがする住宅です。屋根は切妻造りで、建設当時は桎板葺でしたが現在は銅板葺になっています。

4つの部屋からなり、住んでいた人や訪問者が遊びを楽しんだという部屋もあります。現在はピアノやビリヤードが置かれ、遊戯場という印象を受けるとともに豪華な感じがします。屋根裏は物置となっていて、小屋組は木造で和洋折衷の工法となっています。

現在異人館の隣は「伝承館」となっていて、鉱山の歩みや鉱石や道具類、鉱山に関連した貴重な写真や実物などを展示しており、坑夫達の多くの苦勞を感懐させ当時を偲ぶことができます。

また、建物の周囲には鉱石を運搬した貨車等やレール、海上輸送の安全を祈願した金比羅大権現、坑夫達が石に穴を開ける訓練をした大きな石(試験石)、多くの石像などが置かれています。

阿仁鉱山と言えは小澤を中心とする一群の銅山を指し、萱草、一ノ又、二ノ又、真木澤、三枚は阿仁六ヶ山と呼ばれ、発見は17〜18世紀の初めであるが、古くは14世紀には金・銀山が発見されていたようです。銅の生産日本一となった時代もあり人口は1万人にも達しても賑わったようです。鉱山を訪問した人の中に伊藤博文などの政府の要人や菅江真澄も見学したようです。

昭和31年重要文化財(建造物)指定
平成2年3月19日重要文化財指定
資料 阿仁の文化財その1「北鹿は宝」